



# ぬくもり

2020  
72号  
令和2年  
3月1日発行

住みごこち一番・可児 — 若い世代が住みたいと感じる魅力あるまちの創造

## 春は、新たな人生の旅だちのとき

「人生の幸せへのアプローチ」～春の花ことば～



希望

デイジー



努力

つくし



忍耐・不屈

梅



友情・尊敬

二輪草



共感・思いやり

チューリップ



自信・栄光・幸福

福寿草

・人権の定義は、「人間が人間らしく幸せに生きていくための権利」です。その意義を春の花ことばで表現してみました。  
・人生は、すべてに順調とはいかないもの、大小の幸不幸の繰り返しもあり、花ことばの意を紡ぐ。～希望から幸せへ～

### 目次

- ぬくもりのよろこび..... 1
- 特集「人権文化の光彩」  
(標語・300字小説の入賞作品)..... 2~3
- 令和元年度 標語(第19回)・300字小説(第12回)
- 応募者総数: 3,698人  
(小学生1,608人・中高一般2,090人)  
(標語: 3,019点・300字小説: 679点)
- 入賞作品: 37点  
(標語30点・300字小説7点)
- 令和元年度 三大ニュース(実績)..... 2
- コーナー..... 4
- 心のドアちょっといい話、可児市人権センター  
だより、ぬくもりまゆちゃん、㊟、啓発のひかり

### 今年の人権・ホットメモリー

- 【近年の人権法】(日本)
  - 部落差別解消法 (2016・12・16 施行)
  - アイヌ先住民族 新法 (2019・5・24 施行)
- 【日本】施行5周年毎
  - ①高齢社会対策基本法 (1995・12・16) 25周年
  - ②人権教育・人権啓発法 (2000・12・6) 20周年
  - ③児童虐待防止法 (2000・11・15) 20周年
  - ④発達障害者支援法 (2005・4・1) 15周年
- 【国連】施行5周年毎
  - ①人種差別撤廃条約 (1965・12・21) 55周年
  - ②障がい者の権利宣言 (1975・12・9) 45周年
  - ③人権教育世界計画スタート (2005・1・1) 15周年

## ぬくもりのよろこび

### 心を育む

当センター会長 齋藤美智子

子どもは、いつも親や自分を取り巻く大人が大好き。親に愛されたいがために無理な自分を演じている場合もあります。「あなたが大好き・大事な子」の言葉をかけて、子どもが安らぎの心を持つ事が大切。これは「子どもの人権講演会」の講師の言葉です。

毎年、本センターが募集する「標語・300字小説」は、市内全小・中学校等から応募いただき、今年度3,698作品の応募がありました。学校で、家庭で、「人権に関する標語・小説」を子ども達が考える。人権はすべての人に保障され、子どもも一人の人間として尊重され、健やかに成長する権利を持っています。これからも微力ではありますが、可児市人権啓発センターは、「誰ひとり取り残さない」「自分らしい・その人らしい」生き方ができる人権を考え、啓発をまいります。

今後とも本センターへのご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



可児市人権啓発センター(可児市総合会館2F)  
〒509-0214 可児市広見1-5 TEL/FAX 0574(63)7990



可児ぬくもりネット

検索

アドレス <http://www.kani-nukumorinet.jp/>

令和元年度

# 人権文化の光彩

特集

〔審査員・他団体の代表と関係者〕

## 第19回 人権啓発入賞「標語」の部

3,019作品より選考

### 【最優秀賞】

ちがうから 素敵なんだね きみとぼく  
樋口 壮汰(中学校三年生)

### 【優秀賞】

やってみよう たいせつなのは  
そのきもち  
大澤 一輝(小学校三年生)  
無関心 それがいじめの 第一歩  
千藤 海奈(小学校六年生)  
笑つ門 福も来るなら 友も来る  
黒川 明日香(中学校二年生)  
見つけよう 君とわたしの いいところ  
住吉 紗和(小学校四年生)  
勇気は一瞬 後悔は一生  
和田 樹生也(小学校六年生)

### 【入選】

踏み出せば 何かが変わる その勇気で  
生田 奏心(中学校一年生)  
認め合い それが友の 第一歩  
井上 愛(中学校一年生)  
「いじめかな？」 そっおもったら 声かけて  
村瀬 りお(小学校六年生)  
ステキです あなたの笑顔と 優しさが  
木下 久美(中学校二年生)  
きつこつよ ちがう個性の すばらしさ  
加藤 陸(中学校一年生)

のがさない 弱い自分に勝つチャンス

濱嶋 奏花(中学校一年生)

できないと あきらめるのは またはやく  
和田 亜衣梨(小学校六年生)

さべつせず みんななかよく あそぼつよ  
長瀬 心夏(小学校五年生)

違つてこ 認め合おうよ おたがいに  
三原 咲希(中学校二年生)

なくそついじめ なくそつ差別 出そつ勇気  
岡田 陽龍(小学校六年生)

その勇気 きつと笑顔に 変わるから  
梨ヶ瀬 桃花(中学校一年生)

友だちの いいところ見つけて ほめあおつ  
可児 優理(小学校三年生)

かんしゃくの 「く」の字を取って 感謝せよ  
亀谷 幸輝(中学校三年生)

拍手とは 世界に通じる ほめ言葉  
内屋敷 一翔(中学校三年生)

手伝つよ あなたの笑顔 守るため  
小久保 妃菜(中学校一年生)

この世界 要らない人は 一人も無い  
杉田 誠稀(中学校一年生)

まず一步 挑戦しよう 自分から  
佐藤 厘(中学校一年生)

思いやり みんなに広かれ やさしい心  
吉田 祐規(小学校三年生)

広げよう 感謝の言葉で 笑顔の輪  
大澤 直人(中学校一年生)

大丈夫 ほくはいつも 君の味方  
小田 創心(小学校四年生)

なやますに 私に聞いて 仲間だよ  
高柳 早希(小学校四年生)

将来は 自分の努力で 決まるんだ  
今井 彩月姫(小学校五年生)

立ち向かう 勇気があれば 前進だ  
比嘉 愛海(小学校六年生)

「ありがとう」 その一言で  
みんなに笑顔の花が咲く  
榎本 彩希(小学校六年生)

第12回

## 人権啓発入賞 「300字小説」の部

679作品より選考

### 【最優秀賞】

かじゅつぐみ(ペンネーム)(中学校三年生)  
「ねえ、一緒に遊ぼう。」  
これが僕を不安がた  
まった暗闇から救つ  
てくれた言葉だ。僕は  
一ヶ月前に父の仕事の  
都合で日本にやってき  
た。日本の小学校に  
入つたものの日本語が  
分からず周りの子と会  
話がでぎずにいた。あ  
る日、グループを作つ  
て遊ぶという活動が行  
われた。とても楽しそ  
うだと思つた。でも  
僕はどこのグループに  
も入れず一人ぼっちで  
いた。周りからの目が  
怖かつた。そのとき  
きいと君がああ言葉を  
かけてくれた。「一緒  
に遊ぼう。」その瞬間僕  
はホツとした。うれし  
かつた。そんな一言だ  
けでも救われる人がい  
る。そつ考えたときに  
国籍もなにも関係ない  
んだと思つた。伝わら  
なくても困つている子  
には声をかける。きい  
と君のおかげで気付け  
たことだ。



## 令和元年度 三大ニュース (実績)

7月1日

### ホームページリニューアル

・多くの人に見やすく ・閲覧数 1.5 倍増加



11月19日~12月19日

### 人権マンガ祭り

- ・パネル数 約 60 点
- ・展示品：会場毎・テーマ別
- ・開催場所 (4ヶ所)
  - ① マーノ (可児駅前)
  - ② 福祉センター
  - ③ 図書館 (本館) ④ 市役所



年間

### 学校への支援

- ・標語 (19周年)、
- ・300字小説 (12周年) の募集
- ・子どもぬくもり教室 (8周年)
- ・人権本巡回制度 (11周年)
- ・約 60 冊×2 コース  
全小学校巡回



【優秀賞】

萩原 ちひろ(中学校三年生)

「いいなあ…。」  
あの子の周りにはいつも人が集まっている。いつも元気で明るくて、みんなの人気者のあの子を、私はいつも外から見ていた。どうしたらあの子みたいになれるだろう。  
「そのボールペン、私と一緒に！」  
ある時あの子がそう言って、にこにこの笑顔で話しかけてくれた。  
「本当だ、一緒に！」  
そう言って笑顔で返した。「いつも笑顔で笑ってるから、こんなにみんなに好かれるんだらうな…。」  
と思った。  
それから私も、笑顔を大切に、生活するようにになった。あの子みたいになれるといいな。



【優秀賞】

服部 蒼汰(中学校一年生)

早朝に犬の散歩をするのが僕の日課だ。今日も散歩に出たが車のクラクションに驚いて犬がにげてしまった。あわてて追いかけてやっと捕まえると、いつもと違う道だった。辺りを見回すと見慣れた人影がいた。同じクラスの大木君だ。よく見たら大きなふくろを持ってゴミ拾いをしている。大木君はクラスで目立っているような人ではなく、あまり話した事がないが思い返してみるとよく気付く子で、係の仕事などやっているのを見かけた。早朝からゴミ拾いをするなんてなかなかできることじゃない。朝からとても良い気分になった。もっと大木君と話してみたいと思った。それから登校して大木君に声をかけた。  
「おはよう。」



※挿絵は入賞作品をもとに当センター職員が作成しました。

【入選】

松尾 多駿(小学校六年生)

ある日曜日ほくはバスに乗って、おばあちゃんの家に向かっていた。バスの中では、みんなケータイや本などを見ていても静かだった。そんな中、一つのバス停で、赤ちゃんをつれた女性がのってきた。とちゅうで、赤ちゃんが泣きだし、みんながうるさくなってきた。そこで、その女性は、「みんなに迷わくをかけているので、ここでおります。」という目的地ではない所でおけると言った。その言葉をきき、そのバスの運転手は、「もう少しで終点です。みなさんその女性に協力してあげてください。」とアナウンスし、お客さまからは、あたたかなはくしゅや笑顔が飛びかいました。そして、ほくは、その運転手はともやさしく、勇気のある人だなあと思った。

【入選】

横山 来夢(中学校三年生)

「ありがと。」僕のこの世で一番好きな言葉だ。これは、中学一年生の時だった。いつものように朝練の準備をしていた。テニス部では、一年生が朝早く起きて、ボールの準備や、コートでの準備をするのだ。その時、一人の先輩がやって来た。「朝早くありがと。」

僕は、やらなければいけないからやっているだけなのに、そう言われると、朝早く起きて良かったと思っだし、とても嬉しかった。  
二年後、すっかり、僕は先輩になっていった。そして僕は、無意識に先輩に言っていた。  
「ありがと。」

この言葉は、言われて嬉しいし、言っても気持ちが良い、僕を産んでくれてありがと。

【入選】

酒向 琥太郎(小学校六年生)

習字を習い始め、何年か経った時の話だ。僕は左ききだが、習字は右で書けと言われ、右で書いていた。でもうまくできず、周りの同級生達とも差がついていきだんだんいやになってきた。だが、先生が言ってくれた言葉を思い出した。「君、毎回来るたび、上手くなってね。」  
「え？」

「周りなんか気にしなくていいよ。」その言葉を思い出すとなんだか元気が出てくる。周りの子は気にしなくていいところなんだかくつときた。今でもこういつてくれることもある。この言葉があったから習字を続けられたと思う。そこで思った。  
「言葉って、すごいなあ。」

【入選】

徳田 陽(小学校五年生)

また、太郎が陰口を言われている。「やめろよ」と心の中で叫んだ。いつも、ほくもいじめられるのがこわくて助けてあげられなかった。助けてあげられない自分にモヤツとした。

ある日、太郎が陰で泣いていた。そうでもないちばんかなしいのは太郎だよな。そう思ったほくは、勇気を出して言った。「みんなもやめろよ。」その時教室は一瞬静まり返った。ほくは、太郎にかけよう手を握りしめ、「友達なのにだまって見ていてごめんな。」と謝った。太郎もほくの手を握りしめ、「ありがと」と言った。ほくは、心が晴れやかになった。この友情を大切にしようと思う。

## 懸命に生きて友人の母たちのこと

（隣の「人柄の良い親友Sさん」を取材しました）

《あらすじ》人のことをいつも思い、声掛けしてくれる70歳を超える友人Sさん、その人柄の秘密が、育てたお母さんのAさんにあると思いがけず取材しました。自分らしく人への気遣いをして、近所の人から慕われた友人Sさんの母AさんとAさんの姉（叔母）Bさんの生き方の話です。80歳頃亡くなったこのAさんとBさんの葬儀には思わぬほど多くの方がかけつけました。人は、最終章にすべてがあらわされるものです。

★母Aさんは、大正の初めに地方で生まれ、母Aさんが11歳の時には、両親も亡くなっていました。また2人の兄も早くに亡くなりました。  
★残されたのは、Aさんと10歳年上の叔母Bさんの2人だけとなり、叔母Bさんが両親代わりになって人生が始まりました。  
★2人は東京の下町に住み、働きました。  
★その後、母Aさんは19歳の時に結婚、叔母Bさんも結婚しました。  
★その後、太平洋戦争となり、母Aさんの夫は友人Sさん等2人の男の子を残して東南アジアに出兵されました。  
★この間は、母Aさんは夫の生家の田舎に疎開して、夫の安否を心配しながら2人の子供を守りました。  
★終戦後、母Aさんの夫が、戦地からの最後の船で帰還しました。母Aさんは涙を流し子供2人と共に迎えました。  
★終戦後の東京は、荒れ野原でしたが、戦後、日本経済が急成長を始めたので生活も安定し、母Aさんは夫の仕事を助けながら2人の子供を立派に育てようと頑張りました。  
★叔母Bさんの夫の会社は建設業であったため、需要が多く繁盛していききました。  
★母Aさんと叔母Bさんの近所での評判はよく、特に母Aさんの心遣いは、近所周辺で病気やその他で困っている人がいると聞くと、必ず見舞いをしていました。相手が留守の時には「早く治って！」とメモを置きました。心を込めた文面に涙を流した人が何人もいたと言います。こうした善行が大きく地域に広がっていききました。  
★母Aさんは「うががあるのは、近隣地域のみならずのお陰だから、一度頂いた恩は、一生忘れなくてはならない」と言うのが口癖でした。だから、その人が良くなったのを見るまで気が留めて時々訪ねたと言います。  
★息子のSさんが会社で賞をもらって、すぐにSさんの妻へ「あなたのお陰です」と手紙を書きました。そして孫にも時に手紙で激励したと言います。  
★こうした人生を全うし、80歳ごろに入院中、Aさんのもとに毎日多くの人が見舞いに来る姿を見た看護師さんから「皆さんに愛されているんですね！」と言われたとき、母Aさんが歓喜の表情を浮かべ「わかりますー♡」と嬉しそうに笑った顔が忘れられないと、息子Sさんは言っていました。その後、間もなく安心して眠るように生涯を閉じたそうです。

《コメント》人の人生はみなそれぞれです。辛い苦しい時であっても、決して負けない心を持つことは、並大抵のことではないと思います。戦争を体験した先輩でも様々です。ここでのAさんとBさんのように、幼少期の悲しみを生きる力に変え、負けない人生を生きた姿は素晴らしい感動しました。正に今、子供たちに伝えていくレジリエンス（蘇え力）に力強く生きる、育みの教訓です。友人Sさんが「母（Aさん）の生き様を、背中を見て育った」と言っていたことは、子を育てる秘訣であらうと思います。  
（文責：y.k）

## めぐりまゆちゃん 32

作・画：miho / 監修：m.h  
《認めて褒めてくれる存在は♡》



## 可児市人権啓発センターだより

（機関紙発行の合間に出す便りから）

**言葉は心**

- ひとつの言葉でけんかして
- ひとつの言葉で仲直り
- ひとつの言葉で涙を流し
- ひとつの言葉で笑い合い
- ひとつの言葉で頭がさがり
- ひとつの言葉でいがみ合う
- ひとつの言葉はそれぞれに
- ひとつの心を持つている

先日、ある小学校へ出かけました。その学校の教室の隅で、かわいい小さな額にこの言葉（詩）が飾られていました。

日常生活の中で、言葉による表し方（言い方の違いで、ケンカになったり、憎しみあつたりします。また温かい言葉ひとつで喜び、幸せになる事もあります。

言葉が相手との関係を良くも悪くもします！！

心に響く言葉を目にして、涙がこぼれそうになりました。しかし、自分の話す言葉はどうだろうか？と改めて考えさせられました。

●和顔愛語：人と会う時（話す時）は、常に笑顔で、そして思いやりのある言葉を日々使い続けていきたいですね！！

「啓発のひかり」  
★今年には私にとって介護元年。ある日、ふつとわいた母の介護、在宅でと決めたのは私。大変!!を笑い☺に変えてこれからの人生頑張るぞ！ (M.K)

★今、この地方に大きな風が吹き込んでいます。すなわね。例の、麒麟がくる。です。皆さんワクワクしませんか!!全国的に可児市が注目を浴び、多くの方々を訪れて下さることを期待しています。(T.M)

★自分のハンディキャップを気にすることなく、積極的に他人と係りあう人がいます。どんな自分も受け入れる、柔軟な姿に尊敬しかありません。見習える人が近くにいることはとても幸せなことです。(M.W)

★今年度「一年間を振り返って」

「はぐくもう 思いやりの心」この言葉は本センターのキャッチフレーズです。

他人や自分への思いやりがあれば、人間関係のトラブルや自己嫌悪で悩むことは、ありません。

他人や自分のことに、腹を立てるのではなく「思いやりの心」で接すると、不愉快な気持ちもスッと消えていきます。

今年度は、人間関係を深く考えることが出来た年となりました。  
(M.H)